

## ■知的障害のある子どもたちへの実践事例

### マルチメディアDAISY図書を活用した授業実践

#### ―内面に隠れたコンピテンシーを開花させる手立ての一つとして

霧島市立国分中学校  
松田 ひとみ

#### はじめに

本校は、鹿児島県のほぼ中央部に位置する霧島市の公立中学校です。「国中5F (Fighting Spirits・Friendship・Fair・Flower・Future)」をキャッチフレーズとし、「気づき、考え、行動する国分中学生を育てる」という教育目標を掲げています。現在、1年生177名、2年生179名、3年生203名、計559名の生徒が在籍しています。

本校では、全職員が「確かな学力保障」のために、「国中スタンダード」の実践に取り組むとともに「特別支援教育の視点に立つ学習指導」にも積極的に取り組んでいます。

#### 実践研究のテーマについて

この実践研究では、生徒たちの「内面に隠れたコンピテンシーを開花させる手立ての一つとして」マルチメディアDAISY図書を活用することが有効な手立てにつながるのではないかとこの研究仮説を立てて実践に取り組みました。

#### 実践研究の内容について

この研究は、公立中学校の特別支援学級（知的特別支援学級）に在籍する生徒のライフスキル力向上の取り組みとして実践してきたものです。今回は、1学期の教育実践にカリキュラム・マネジメントの視点を加えた後の2学期以降の取り組みについて報告します。

#### 実践研究の目的

マルチメディアDAISY図書には、以下に示す5つの機能があります。

- ①音声の読み上げ機能（読むスピードも調整可能）
- ②文字のハイライト機能
- ③文字や絵の拡大機能
- ④自動ページめくり機能
- ⑤どこでも気軽に使える教育機器的機能

また、操作方法も簡単で、自ら操作して作品を選び活用することができるため、ユニバーサルデザインの視点における「わかる・できる授業」を目指すうえでも有効なICT機器の一つです。

この実践研究では、マルチメディアDAISY図書を用いた学習を行うことで、生徒たちの内面に隠れたコンピテンシーを引出し、育むことを目的としています。

## マルチメディアDAISY図書の活用について

特別支援学級の教育課程では、生徒の実態に応じて「各教科」、「特別の教科 道徳」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」に加えて、障害による学習上または生活上の困難の改善や克服を目指した指導領域である「自立活動」と、各教科を合わせた指導として「生活単元学習」が位置づけられています。

今回の実践研究では、特別支援学級の教育課程の特性をいかし、「国語」と「自立活動」での活用実践例を紹介します。全教科にわたった横断的なアプローチを進めていくための第一段階として「国語」、「自立活動」における活用例を紹介したいと思います。

## マルチメディアDAISY図書の活用の実際

### (1) 自立活動

#### <使用した本の名前>

『どうしてかぜをひくの？ インフルエンザになるの？』（再生時間：26分）

#### <本の情報>

監修：清水 直樹、清水さゆり

絵：せべ まさゆき

編著：WILL こども知育研究所

出版社：金の星社

I S B N：4323035713



ともに医師である清水さゆり氏と、夫の清水直樹氏によって監修された絵本です。

「なぜかぜにかかるのか」、「かぜやインフルエンザにかからないようにするための予防策にはどんなものがあるのか」、「もしかかってしまったときにはどうしたらいいか…」、という疑問についてわかりやすく説明されています。また、せべまさゆきさんのポップで鮮やかなイラストは子どもたちにも人気です。

#### <活用の実際>

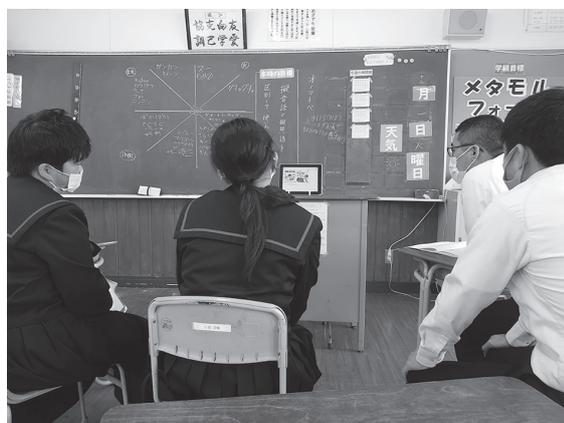
この作品は、子どもたちにとってはじめてマルチメディアDAISY図書にふれるきっかけとなった本です。子どもたちのほとんどは身近にタブレットやスマートフォンがある生活をしている

ため、マルチメディアDAISY図書の操作方法についてはすぐに理解することができました。

新型コロナウイルスが全国的に感染拡大する中、テレビや新聞などでも日々さまざまな報道がなされています。本校でも十分な感染対策を行うと同時に、子どもたちの発達段階をふまえた指導を行っています。

私が担任をする城山3組（3年生5人）においても「新型コロナウイルスについて正しく理解し、子どもが自分自身で実践できることを実行する」ために自立活動における「健康の保持」を目的として、マルチメディアDAISY図書を用いた授業を行いました。

この授業ではわかりやすい言葉で書かれた絵本を用いることによって、「感染症は病原体が身体に侵入して発生する」というしくみだけでなく、「どうすれば自分自身の身を守ることができるのか」ということについてわかりやすく学ぶことができました。



自立活動の授業風景

## (2) 国語

### <使用した本の名前>

『じごくのそうべえ』（再生時間：16分）

### <本の情報>

作・絵：田島 征彦

出版社：童心社

ISBN：9784494012039

上方落語の「じごくはっけいもうじゃのたわむれ地獄八景亡者戯」を題材に関西弁を駆使してかかれた落語絵本です。インパクトの強い力強い絵とともに、ユーモラスにストーリーが展開されていく作品です。子どもたちにも人気の高いロングセラー絵本として有名です。

### <活用の実際>

この作品は、国語で学習した「表現技法」の発展学習として取り入れました。それまでの授業において「擬音語」や「擬態語」について学習し、日常生活におけるオノマトペに着目した単文づくりを行う活動をしてきました。子どもたちはそれまでの学習を通してことばのもつリズムのおもしろさを知ると同時に、いろいろな場所に擬音語や擬態語があることに気づいたようでした。

ただ、私はこの作品を視聴したとき、彼らが耳慣れない関西弁に違和感を覚えたり、16分間集中できなかつたりするのではないかな、と危惧していました。しかし、子どもたちはその言葉のリズムを楽しみながら、あっという間に作品世界に引き込まれていきました。

姿勢の維持がむずかしく、低緊張不安型の状態で椅子に座ることの多いAさんは、長時間の集中力に課題があります。しかし16分という比較的長い作品にもかかわらず、楽しそうに笑ったり、画面を食い入るように見たりしていました。

それぞれに作品を観た後も、「熱湯の釜って熱いんだよね。それなのに、どうしてああ、ええ 湯やな。って言ったのかな?」と一人が話し始めると、別の子どもが「やまぶしのふっかいて人が呪文みたいなのを言ったからだよ」と答え、それぞれが作品中の登場人物や作品の中の設定状況についてよく理解しながら鑑賞していたことがわかりました。また、この作品では視聴後の感想について活発に意見が交わされ、子どもたち同士でわからなかった部分についての確認も行うことができていました。

下図は、一人の生徒が、マルチメディアDAISY図書で視聴したこの作品をおすすめ図書として友だちに紹介するために書いたものです。

わたしのおすすめ作品		
作品タイトル	じごくのソラベえ	時間 16
作者名	田島征彦	
絵・イラスト	☆ここがおすすめのポイントです。 オニと地づくにおとされた人との会話が おもしろいので、読んで みてください。	
出版社	童心社	
NDC	913	
		

短い文章ですが、Aさんがどんな部分で心を動かされたのかよくわかりません。弱視傾向があり、テストなども拡大コピーによる対応をしています。そのため、長文を読むことを好まず、小さい文字を見ると疲れがでやすくなります。しかし、マルチメディアDAISY図書がもつハイライト機能（読み上げているフレーズをカラー表示：Aさんの場合は黒文字に黄色のハイライト）を用いることで、読むことに対する困難の壁を気にすることなく、作品世界を楽しむことができました。

## マルチメディアDAISY図書の活用の効果

思春期の真ただ中にいる子どもたちは、日々さまざまな葛藤に揺れながら学校生活を送っています。その中でも特に、読み書きに困難のある子どもたちは自分の気持ちを相手にわかるように伝えることができずに、情緒の安定を崩しがちです。

そこで困っている彼らの現状をより明るい未来につなぐために、彼らの中に眠ったままの力やことばを授業における手立てや工夫によって引き出す方法はないかと、日々模索しています。今回の実践研究はそういった過程の中で、授業改善の一つとして2学期の授業に位置づけたものです。

マルチメディアDAISY図書には、絵

本以外にも幅広いジャンルの作品がそろっています。また「わいわい文庫 AreaMap」には対象年齢や再生時間等が書かれており、子どもたちの実態に応じて教師が使用することが可能です。

子どもたち自身で見たい作品を視聴することもできるため、タブレットに入れておくと大変便利です。私のクラスの子どもたちも、授業以外でも自由に見たい作品をそれぞれのスタイルで視聴しています。

聴覚過敏のBさんは、音を消し、楽しそうに音読しながら作品を読んでいます。また、わかりやすい言葉で書かれているだけでなく、擬音語や擬態語をリズムよく取り入れた絵本作品が多いため、親しみやすいようです。

現在も、昼休みに自分のお気に入りの作品を探し、にこにこしながらマルチメディアDAISY図書を視聴している子どもの様子を見ます。そういった様子を見ているとマルチメディアDAISY図書は読み書きに困難のある子どもたちにとって「学びの扉」を開くだけでなく「心を癒す」存在でもあるのかもしれないなあ、と実感しています。

## 実践研究のまとめ

生徒たちと一緒に同じ景色を過ごす時間の中で特別学級に在籍する生徒たちの中には理解していながらその使用方法を知らずに眠っている言葉がたく

さんあるのではないかと感じてきました。しかし、いまだ蓄のままのことばであっても合理的配慮と基礎的環境整備などの手立てが整えば、開花のチャンスがあるのではないかと考え、マルチメディアDAISY図書を活用したさまざまな授業実践を行ってきました。その中でも『じごくのそうべえ』の授業における生徒たちの変容は大変喜ばしいものでした。

認知面と情動面に困難のある生徒たちは自ら発言したり、積極的に行動したりすることがむずかしいため、授業においてアクティブ・ラーニングによる学習展開は厳しいのではないかと、いわれることがあります。しかし、認知機能の困難さからくる記憶の劣弱性をもつ生徒たちであってもマルチメディアDAISY図書がもつ視覚情報と聴覚情報によるサポートによって興味・関心・意欲を高めつつ、主体的・対話的で深い学びによる授業を展開することができます。

彼らの学びが将来社会で生きていくうえで「生きて働く力」となるようにするためにも生徒たちのやる気を引き出すための手立ての一つとして有効なツールであると実感した瞬間でした。

特別支援学級に在籍する生徒たちは自分の気持ちを相手にわかるように伝えることができずに情緒の安定を崩し、自己肯定感を下げてしまう場面がみられる

ことがあります。しかし、この情動面をよりよくコントロールできるようになると「主体的学び」や「対話的学び」に対する力が伸びるということをこれまでの特別支援教育に携わる時間の中で学んできました。そのため、担当するクラスでは「アンガーマネジメント」や「認知機能のトレーニング」「ソーシャルスキルトレーニング」等を行いながら「学び合い」による授業を展開してきました。今回はそれに加えてマルチメディアDAISY図書の活用による授業を行うことで生徒たちのことばに対する興味を高めることができました。また、その興味は「次はあの作品を読みたい」という関心や意欲につながり、彼らはさまざまな作品世界にふれる機会を得ることができました。

すでに知識として知っていることばの使い方を知り、声を出して笑うことの少なかった生徒が楽しそうに声を出して笑い、時に冗談を言い合ったりできるようにもなりました。

日記として活用している生徒たちの

生活ノートもこれまでは事実のみに終始したり「うれしかったです」「楽しかったです」という抽象的な表現にとどまったりしていました。しかし、マルチメディアDAISY図書を活用した授業を行ってからはオノマトペを用いて書かれることが多くなり、具体的に自分の気持ちを表現できるようになってきました。ことばとして知っていても、新しい知識として脳の中にあるだけではその知識もことば自体も埋もれたままになってしまいます。

今回の実践研究においてマルチメディアDAISY図書は、内面に隠れたコンピテンシーを開花させるための有効な手立ての一つにつながるということを感じることができました。

本校では、図書館にもマルチメディアDAISY図書を導入しており、昨年の段階で、すでに200近い作品がそろっています。子どもたちにとって新しい扉を開くきっかけになるといいなと考えています。